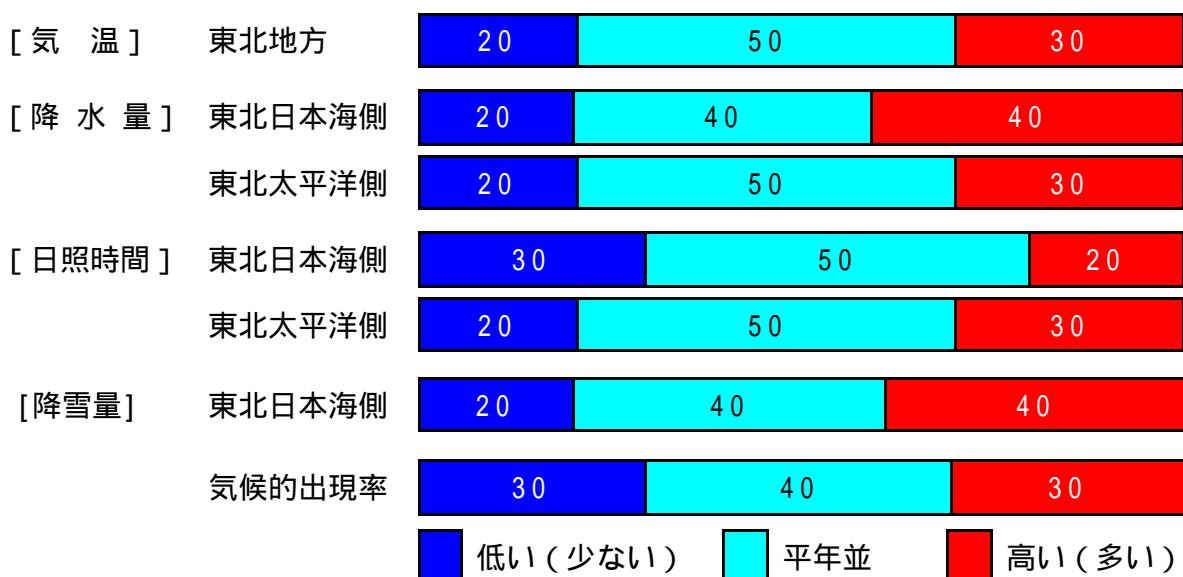


# 東北地方1か月予報の解説(予報期間:12月11日~1月10日)

平成11年12月10日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「高い」で、その確率は30%です。「低い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

### 向こう1か月

東北地方は、平年と同様に冬型の気圧配置となる見込みです。寒気の入る時期と冬型のゆるむ時期があるでしょう。このため、平年と同様に東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

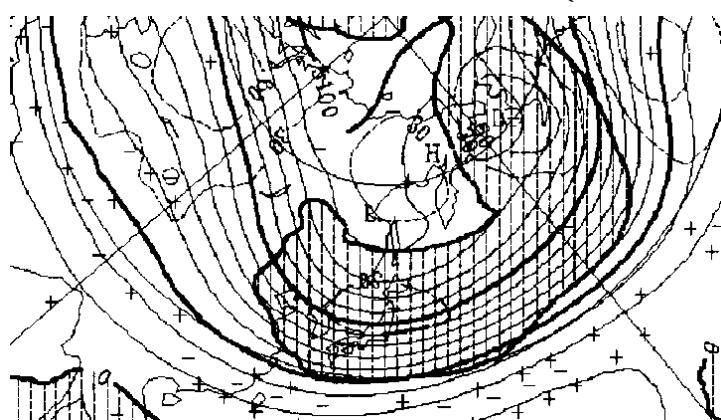
この期間の平均気温は平年並の見込みです。また、東北日本海側の降雪量は平年並が多い見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約6日、東北太平洋側で約19日です。

## 各予報期間の天候の特徴

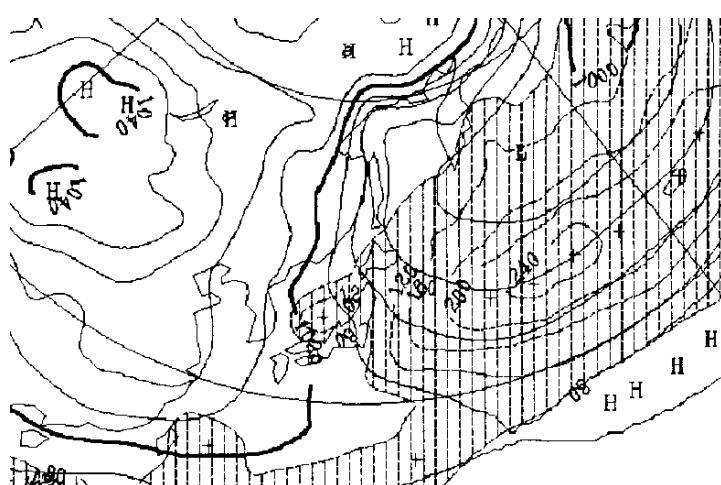
- 1週目…………… 向こう1週間は、期間の中頃に気圧の谷の影響で天気の崩れるところがあるでしょう。その他の日は、冬型の気圧配置となり、東北日本海側を中心に雪が降る見込みです。東北太平洋側の沿岸部では概ね晴れるでしょう。なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。  
 (12月11日～12月17日) 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約1日、東北太平洋側で約4日です。
- 2週目…………… 冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。  
 (12月18日～12月24日) 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約1日、東北太平洋側で約5日です。
- 3～4週目…………… 冬型の気圧配置となるでしょう。平年同様、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。  
 (12月25日～1月7日) 平均気温は平年並の見込みです。  
 平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約9日です。

## 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa高度・偏差

月平均でみると、日本付近は日本谷<sup>注1</sup>傾向で、広く負偏差に覆われている。寒気が入りやすいが、気圧の谷の通過で、冬型の気圧配置がゆるむ時期がある。2週目(図略)は、日本付近広く負偏差だがやや西谷<sup>注2</sup>傾向。寒気は西日本に入りやすい。3週目以降(図略)は、日本付近は北日本は弱い負偏差、東・西日本は弱い正偏差。



注1) 日本谷：日本の上空に気圧の谷が形成される状態で、低気圧や前線の影響を受けやすくなる。

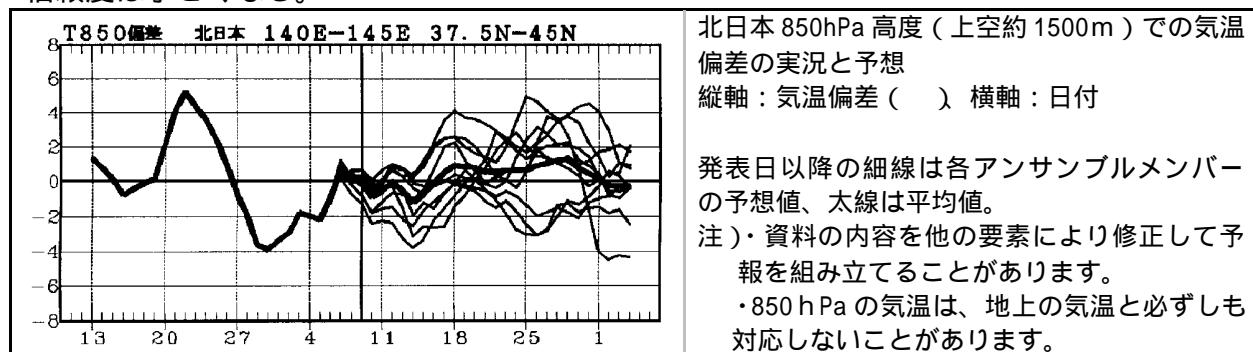
注2) 西谷：上空で日本の西側が気圧の谷となり、南から暖かく湿った空気が入りやすい。

### ・地上気圧と降水量

月平均でみると、大陸から日本付近に高気圧が張り出し、ベーリング海方面には低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。これに伴う降水域は日本海中部を中心を持つ。また、日本の東海上にもまとまった降水域が広がる。2週目(図略)も平年同様、冬型の気圧配置が予想される。3～4週目は太平洋側にも弱い降水域が予想される。

### 3. 北日本 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温偏差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1週目はほぼ平年並、2週目以降は平年並～高めで推移し、強い寒気の流入は予想されていない。1週目からややばらついており、寒気の程度は不確実な部分がある。2週目以降はさらにばらつきが大きく、信頼度は小さくなる。

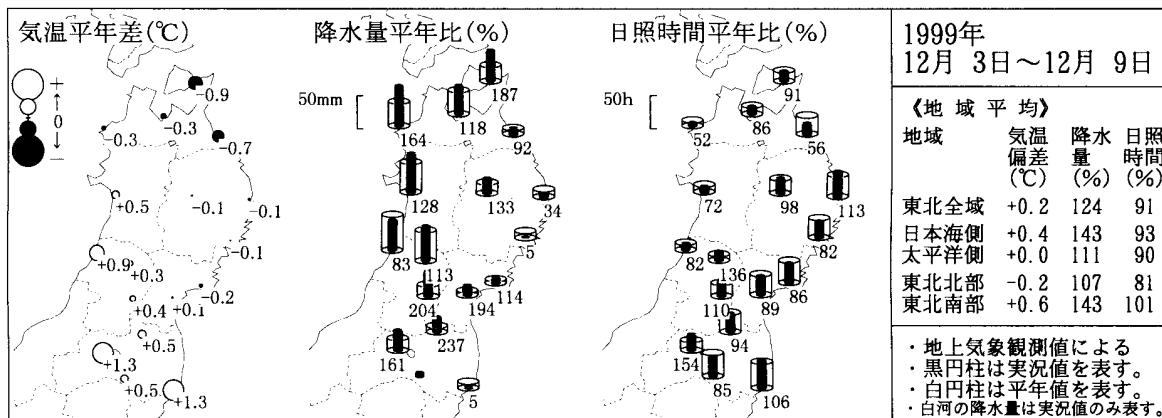


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

### 4. 最近1週間（12月3日～12月9日）の天候の経過

この期間、短い周期で気圧の谷が通過した。このため東北日本海側では雨や雪の日が多く、9日は寒冷前線の通過で雷雨となった。東北太平洋側では5～6日は曇りや雨となり、7日は冬型の気圧配置が強まり雪のところが多かったが、その他の日は概ね晴れた。

平均気温は、東北北部で平年差-0.2、東北南部で平年差+0.6。降水量は、東北日本海側で平年比143%、東北太平洋側では平年比111%。日照時間は、東北北部で平年比81%、東北南部で平年比101%だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）